

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会

171号

一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認  
 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行



ちくじ  
目次

からだ ころも うご とし 体も心も動く年に	2、3
とうひょうじゃくしゃ つうかん じゅうみんとうひょう '投票弱者'を痛感した住民投票	4、5
しんぶん どんどん新聞より	6、7
ぱれっとがんばるぞ	8
こそだ にっき スタッフ子育て日記	9
さいたいさいていげん たの かた 最大最低限の楽しみ方	10
かきぞ しょうかい 書初め紹介	11
かつどう 活動のあと	12

## からだ ところ うご とし 体も心も動く年に

新しい年が始まりました。この通信が皆様の元に届く頃は、どんな社会状況になっているでしょうか。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな活動を中止せざるを得ませんでした。これまで積極的に社会参加することをモットーに活動してきた当会にとって、この状況は大変つらく、厳しいものでした。誰にも正解がわからず、見通しの持たない状況が続き、「いつになったらコロナ終わるん！」と不安と怒りでいっぱいメンバーたちに「誰にもわからんねん。私らも早く終わってほしい。何やったらできるかなあ。」と答えながら日々共に悩み、迷う支援者たち。感染対策への気遣いも重なり、いつのまにか疲弊感がどんどん募って行ってしまいました。

特に、子どもたちにとって“1年”は大人とは違う重みがあります。入学式や卒業式をはじめ、修学旅行、学校見学などさまざまな機会が中止や延期になり、反だち同士での自由な活動もままならない中で学びを深め、次への道（進路）を見つけていかないといけない子どもたち。4月にオープンした“みらくる ゆーすと”に通う不登校の子たちにとっては、ハンデが折り重なってのしかかっているような感覚までありました。そこで、コロナ感染が少し沈静化していた11月に1泊で“淡路島合宿”に行くことにしました。一昨年に淡路島に移住した子を訪ね、その子の反だちとも合流して“淡路島冒険の森”へ。自然の中で誰にも気兼ねすることなく、走り回る子どもたち。釣り、バーベキュー、花火と夏にできなかったイベントを存分に満喫し、夜遅くまでカードゲームを楽しみ、宿泊。翌日はあいにくの雨でしたが、子どもたちの「雨でも行きたい！」という声に押され、動物のえさやり体験へ。傘を差しながらの活動でしたが、子どもたちはとても楽しそうでした。



そして、この活動の頃から子どもたちの動きが活発化してきました。外出用に、これまでもらっていなかった生徒手帳を中学校にもらいに行く連絡をすると、体育祭と文化発表会の見学に誘われました。当人のAさんは「行きたくないなー」と言っていました。が、“みらくる ゆーすと”の仲間が通っていることもあり、他校生のBさんが「ついて行ってあげてもいいよ」と言うと「Bさんが行ってくれるなら・・・」とAさんも行く気に。今年はコロナ禍で

外部者の立ち入りを禁止されている学校も多い中、中学校のはからいで他校生の B さんも見学を認めてもらい、「この、学校に近づく道が一番ドキドキする」「小学校の友だちに声をかけられたらどうしよう」「C さん、D さんの作品を探せ！」「(隠れて行動しながら)俺ら、スパイみたいやなー」と、ドキドキ、ワクワクしながら見学しました。



翌週は、B さんの体育祭。「俺は絶対に行かへん！！」と

宣言していましたが、A さんが「私の学校についてきてもらったから、今度はついていくよ」と言うと「じゃあ、学校の外から見るだけやったら」と気持ちが動きました。それぞれ自分



身の課題に向き合うのは大変で、大人からの働きかけには響かなくても、仲間が応援してくれると勇気がわくようです。それまで学校の話も勉強の話も頑なに嫌がっていた子たちでしたが、進路の勉強会をすると動画を見ながら学習する気になったり、高校進学のための相談会に行ったり、学校からアルバム用の写真撮影に来てもらったりと、少しずつではありますが遊び以外のことにも前向き

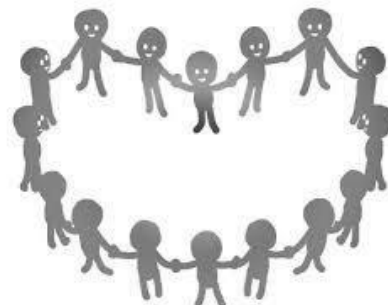
に取り組むようになってきました。“体が動くと心も動く”、子どもたちを見ているとまさにその通りだと実感します。

今年度は親子で体験活動をするみらくるクラブもすべて中止し、生野子育て社会化研究会のこども食堂も休止したままになってしまいましたが、月1回の子育ちなんでも相談会では相談を受けるだけでなく、食糧やリサイクル衣料の提供をすることで、選んでいる間に子どもたちと遊んだり保護者と話をしたりしながら、出会い・つながりの場を継続してきました。なかなか見通しを持ちづらく活動の制限も多い現状ではありますが、不安を共有し、どんな状況にあっても完全にとどまってしまうことなく体を動かし、課題にぶつかりながら考え続けることで同志とつながり、共に歩みを進めていきたいと思っています。この“世界的な危機”が私たちに新たなつながり、パワーを与えてくれることを信じて。

(ミサオ・K)

## ‘投票弱者’を痛感した住民投票

大阪市では昨年11月に、大阪市を解体し特別区を設置することの是非を問う2回目の住民投票がおこなわれました。僅差で大阪市の存続が決まった前回に続き、今回も大阪市の存続が決まりました。大阪市民を真っ二つに分断したこの住民投票ですが、私たちは住民投票の結果が未来に及ぼす影響についてどこまで理解しながら投票できたでしょうか。



住民投票は議員を決める選挙とは違い、直接自分の意見で反対か賛成かを投じることができる貴重な機会です。どんな未来を望むのかできるだけ理解して投票したいと思うものの、説明を聞いても「なんか難しいなあ」、「よう分からんわ」という声も多数聞かれました。それでは、票を投じる際の判断基準はどのようなものになるのでしょうか。たとえば、『大阪』に愛着があるからなくしたくない。それも良いと思いますし、「今までとは異なる行政区で現状を変えてほしい」、それも良いのです。理由は何であれ、自分の思いを投票行動に反映できるのです。しかし、今回ほど投票行動が社会的弱者にとってそもそも不利であるということをおもひ知らされたことはありません。

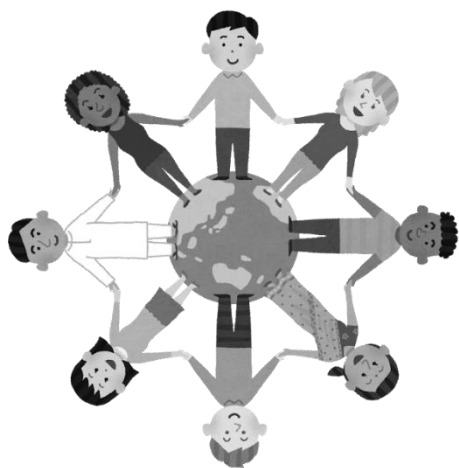
あるメンバーは大阪市をなくさないで欲しいと願っていましたが、彼は「大阪市なくしたらアカン」と、今回の住民投票が話題にあがるたびに表明していました。住民投票が公示されると、街には、「YES都構想」と書かれた大阪市を廃止し都構想をすすめるポスターと、大阪市を残し都構想に反対する“大阪市の廃止に、NO”と書かれたポスターがあちこちに掲示されました。ある日、都構想に反対する彼が“大阪市の廃止にNO”と書かれたチラシをもっていたのですが、



そこに大きくマジックでバツ印が入れていました。大阪市の存続を望むなら反対派のチラシに〇をいれるべきところですが、しかし、彼がとった行動は反対派のチラシにバツを書き入れるということでした。自分の思いは「反対」なのに、反対派のチラシにバツを入れてしまう。彼の意見を知らなければ彼は都構想に賛成しているのだと思われるでしょう。自分の思いを

あらわ はんたい さんせい りかい したい むすか  
 表すものが「反対」か「賛成」のどちらなのか理解すること自体に難しさがあるということ、  
 こんかい じゅうみんとうひょう むすか てん てんめ  
 それが今回の住民投票が難しかった点の 1 点目です。

さらに、今回の投票でも、反対か賛成かを投票用紙に文字で書く事が要求されていまし  
 た。文字を書くことが難しい人は、投票所の係員に頼めば手伝ってもらえることになって  
 いるのですが、知的障害者には意思疎通に困難を抱える人も多く、初対面の人との会話が苦手  
 な人もいます。普段関わっている支援者は投票所の入り口までしか付き添いができません。  
 ふな ばしょ じぶん おも つた むすか  
 不慣れな場所で自分の思いを伝えることがどれほど難しいものか、まだまだわかってもらえ  
 ていないと思います。誘導を防いだり不正な投票を防いだりすることは大切ですが、知的  
 しょうがい ひと おも ゆうこう びょう はいりょ げんじょう ふじゅんぶん おも じぶんじしん  
 障害のある人の思いを有効な 1 票にする配慮が現状では不十分だと思っています。自分自身の  
 たちば かけん びょう とう みらい せいど か とうひょうこうどう もの  
 立場や価値観で票を投じることで、未来の制度が変わるというのに、投票行動ができない者  
 は未来をマジョリティに託すしかないのでしょうか。それでもなんとかそれぞれの思いを投  
 びょう じぜん もじか れんしゅう とうひょうようし ふひつよう  
 票できるようにと、事前に文字を書く練習することにしました。投票用紙に不必要なこと  
 を書いても無効になってしまうのですが、そこを伝えるのもなかなか難しい。用紙が小さい  
 と記入しにくいこととか、やはり障害者の投票については配慮されていないと感じます。  
 せんきょ じゅうみんとうひょう ひと ひと  
 選挙にしる、住民投票にしる、「できる」人のものになっています。「できない」人にどれだ  
 け合理的な配慮ができるのか、もっと検討されるべきだと痛感しました。



さいご いくのく がいこくせき じゅうみん く  
 最後に、生野区にはたくさんの外国籍の住民が暮らして  
 います。当会のメンバーにも支援者にも関係者にも外国にル  
 ーツをもつ人が当たり前にあります。自分たちが住んでいる街  
 のことを決める投票に参加できないことにも、個人的には  
 きもん ぎんしゃかい たようせい そんちよう たぶんか  
 疑問しかありません。日本社会が多様性の尊重や多文化  
 きょうせい うた すく ねんすう つ かさ  
 共生を謳うようになって少なからずの年数を積み重ねてき  
 ました。生野区に至っては、人口の約 12 万 7 千人（令和 2 年  
 がつげんざい まん せんんにん がいこくじん  
 9 月現在）のうち 2 万 7 千人が外国人です。

しんがた さなか しょうがいしゃ がいこくじん  
 新型コロナウイルスのパンデミックの最中、やはりマイノリティである障害者や外国人は  
 しゃかい きび む ふとう さべつ う しゃかいじょうせい ふあん  
 社会から厳しいまなざしを向けられ、不当な差別を受けてしまうのです。社会情勢が不安に  
 なればますますマイノリティの声が抑圧されてしまいます。

だから、わたしたちは声をあげ続けなければいけません。

(カオリ・I)

どんどん新聞 No.188 より抜粋

どんどん<sup>しんぶん</sup>新聞

No.188



発行日 2020 年 11 月 00 日

発行者 自立生活センター・どんどん

大阪府生野区田島1-10-30

tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



## ビデオメッセージで対府交渉に参加しました。

日時: 2020 年 9 月 10 日 (木) 交渉の会場: コミュニプラザ平野

### ◆届け! 私たちの思い!

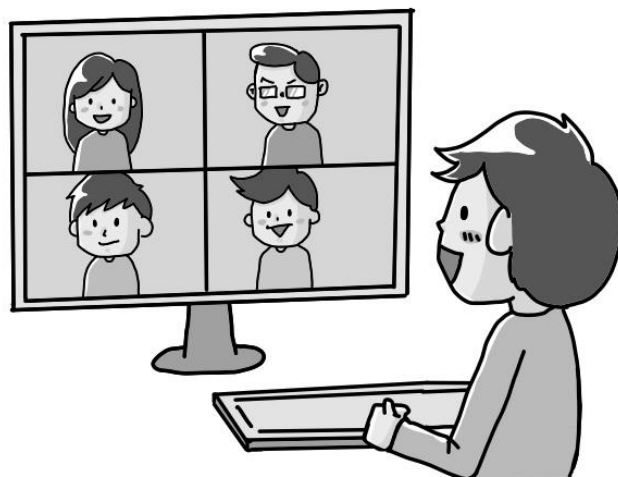
今年も交渉の時期がやってきました。ところが今年、新型コロナウイルス

感染防止のために、会場に入る人数に制限がかかりました。マスクをすること

ができなかったり、感染対策が難しいメンバーもいるので今年、会場には行か

ずビデオメッセージを作り会場で流してもらうことになりました。交渉の様子

はとりの木1階でリモートで見ることになりました。



かいじょう ようす み ばん まわ  
 会場の様子を見ていると、どんだんの番が回ってきました。

なか ひとりぐ ひと い  
 ビデオの中で、KSさんは“一人暮らしの人がコロナになったらどうしたら良  
 いの？”“テレビでコロナのこと何言っているかわからん！分かりやすく教えて  
 ほしい！”と訴えました。

ひつよう か かいごようてぶくろ しょう  
 KKさんは“コロナのせいで必要なものが買えなかった！介護用手袋や消  
 どくやく て はい うった  
 毒薬が手に入るようにして！”と訴えました。

ひとりぐ りよう  
 一人暮らしをしながらグループホームを利用しているNさんは“これからも  
 わらくそう がたりよう ねんげんてっばい うった  
 和楽苦荘を使えるようにして！”(サテライト型利用の年限撤廃)と訴えました。

こべつ りよう  
 TKさんとKさんはグループホームの個別ヘルパー利用について、ヘルパーさ  
 んの必要性を訴えました。Kさんは最後に握りこぶしを作り「よろしくおねが  
 いします！」と言いました。

こ ふろ しょくじ こま  
 TRさんもグループホームにヘルパーさんが来なかったらお風呂や食事で困  
 るということを話しました。

はじ さんか おおさから つた ふあん  
 初めてのリモートでの参加で、ちゃんと大阪府に伝わったか不安だったり、わ  
 かりにくかったり字幕が変になるトラブルもありましたが、じかい たいしこうしょう  
 次回の対市交渉にむ  
 向けてがんばります！！



## ぱれっとがんばるぞ

ぱれっとさんに行くととても楽しいです。

ぱれっとさんで友達ができました。

Yさん、KさんとM.Tくん、O.Mちゃん4人友達がふえました。

ぱれっとのお仕事なれました。友だちができたのできんちょうはしていません。

ぱれっとのお仕事何をしましたか。あてながきをしました。はこおりもしました。

ぱれっとでドッチボールをしました。とても楽しかったです。

ぱれっとのお弁当おいしかったです。

Yさんと一緒にぬりえをしてとても楽しかったです。

はがきのシールはりもめっちゃがんばりました。

ぱれっとさんに行くと友だちがふえてとてもうれしかったです。

ぱれっとさんでラジオ体操もしています。

ぱれっとさんのお友だちとはれっとさんのお仕事いろいろしています。

ポビンのお仕事とかマスクの袋入れとかしています。

ぱれっとさんのスタッフさんも優しくていねいにお仕事をおしえてくれます。

ぱれっとでは運動もしたりします。

今日ぱれっとでドッチボールをしました。とても楽しかったです。

(リズム・T)



Tさんは、16年間勤めた保育園を退職され、新たに就労継続支援継続B型事業所「ぱれっと」に通い始められました。



## スタッフこそだ子育てにっき日記

しゅうぎょうしき 終業式の翌日、ちやうなん 長男が突然「アニキって呼ばせるのやめよかな」と言い出しました。ちやうなん 長男は おとうと 弟に自分のことを「アニキ」と呼びたいと、なか お腹にいる時から話しかけて、う 生まれてからもずっと「アニキやで」と話しかけ今では 2さい 2歳の次男は兄を「アニキ~」もしくは「アニ~」と呼びます。それを知っている わたし 私は「えっ、どうしたん?」と思わず聞いてしまいました。「先生にそれ へん 変やでって い 言われてん」と言うのです。確かに「アニキ」は おとうと 弟が兄を呼ぶ時に使う言葉としては いっぱんてき 一般的ではないかもしれませんが、ちやうなん 長男が決めたその呼び方を「自分がそう呼ばれたい」と おとうと 弟に教えた呼び方を わたし 私はいいと思っていました。ちやうなん 長男の気持ちを思うと切なく、くや 悔しく感じました。「ちやう ちょっと変わってるけど、それがいいと思ってるならこのままでいいと思う」、「先生に言われたから か 変えるんじゃないくて、自分で かんが 考えてほしい」と ちやうなん 長男に伝えると、「アニキでいいわ。アニキって言うの嫌ってそのうちなるかしらんしな。」と い 言いました。

ともだち 友達と言うならまだしも、せんせい 先生それを言うなら、もうちょっと 自分の かんが 考えを伝えてあげてよ、それじゃ ひてい 否定しただけよってというのが わたし 私の こころ 心の声でした。わたし 私 おとな がつい大人の「ふつう 普通」にあてはめてしまいそうになります。でも、「か 変わってるけど、それもいいね」と、こども 子どもが おも 思いついたことを う 受け入れてあげたいなあ おも と思います。

(マサミ・G)



## さいだいさいていげん たの かつ 最大最低限の楽しみ方

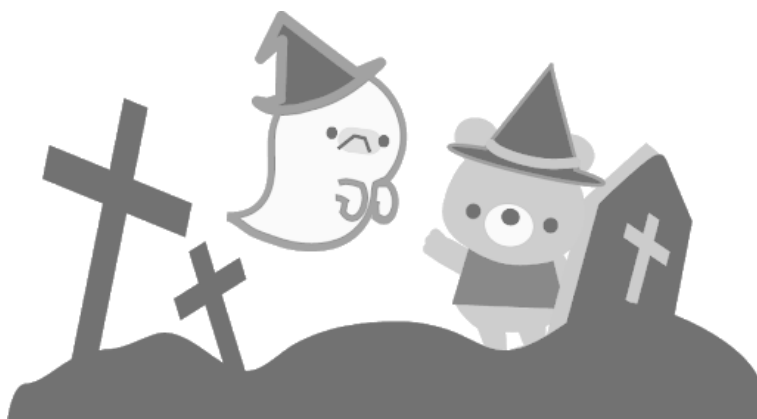
いま ぜんこく が コロナ禍に見舞われていますが、季節はこれまでと変わらず春夏秋冬めぐっていきます。外出や大勢で集まることが困難になり、お花見やハロウィン等のイベントを楽しむことも難しくなりました。

そんな中、作業所はたらく・つながる「ととりの木」で、感染リスクを抑えながらメンバーにイベントを楽しんでもらおうと行ったのが、作業所にイベントにちなんだ飾りつけをすることでした。

例えばハロウィンの際は、メンバーやスタッフでカボチャや仮装をしたキャラクター等の絵を描いたりして、作業所の道路側に紐で吊るして飾りました。塗り絵が好きなメンバーにはスタッフの描いた絵を塗ってもらったりしました。普通の紙に描くのではなく、きれいに洗った牛乳パックを平面にして、白無地の部分をキャンバスとして描きました。牛乳パックに油性のペンで描くことで、頑丈だけでなく雨に濡れてもインクが落ちないという利点もあり、準備をしていたスタッフにそれを聞いた時は驚きました。

更に牛乳パックを頭や手足の形に添って切り、それぞれを紐で繋げて、ハロウィンらしい骸骨や魔女も作りました。牛乳パックをたくさん使った分、大きなものが出来上がり迫り満点でした。メンバーもそれを見て「こわ」と言って笑ったり、名前を付けたりして楽しんでいました。飾りつけは作業所の前を通りかかった地域の方々の目にも見事に止まり、子どもが親御さんと一緒に、絵や骸骨たちを立ち止まって見上げているのを目にしました。コロナ禍で地域の方々と交流をすることも難しくなっている中、直接的ではありませんが、こういった交流もありなのかなと思いました。

(キズナ・T)



かきぞ しょうかい  
メンバーの書初め紹介

ことし かきぞ  
今年も書初めをしました！！



活動のあと

- |  |  |
|--|--|
| 10/2 グループホームスタッフ全体会議   | 11/13 防災担当委員会                              |
| 10/4 IKUNO 多文化ふらっとフォーラム<br>上町台地・今昔フォーラム Vol.13&14(大阪ガスエネルギー・文化研究所) | 11/16~17 きらら内装工事                           |
| 10/7 成年後見推進委員会/研修(求人・広報力の向上)<br>障大連 都構想反対アピール行動参加                  | 11/16~27 実習受入れ(四天王寺大学)                     |
| 10/8 出発通信発送/内部研修(給与体系プロジェクト会議)                                     | 11/17 内部研修(発達障害勉強会)/相談支援研修会                |
| 10/13 大阪府立桃谷高等学校より見学/生野区 NPO 連絡会役員会                                | 11/18 生野区自立支援協議会研修会                        |
| 10/13~11/17 実習受入れ(大原学園)  | 11/19 生野区相談支援事業所連絡会                        |
| 10/14 どんどん勉強会(大阪都構想)/支援機関の勉強会(相談支援)<br>生野区学童期のこども支援連絡会役員会          | 11/21 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)              |
| 10/15 生野区相談支援事業所連絡会  | 11/21~22 Creema×いくの みんなの文化祭                |
| 10/17 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)                                      | 11/23 第 11 回東北⇄関西⇄九州ポジティブ生活文化交流祭           |
| 10/18 生野区 NPO 連絡会総会勉強会   | 11/24 福祉・介護職員処遇改善加算取得促進セミナー                |
| 10/21 生野区学童期のこども支援連絡会/障大連 都構想反対<br>アピール行動参加                        | 11/24~28 実習受入れ(関西大学)                       |
| 10/24 みらくるジャンプ(松野農園)   | 11/25 オールケア学院にて講演(どんどん)/生野区 NPO 連絡会役員会     |
| 10/26 地域共生ケア生野推進委員会役員会   | 11/26 執行委員会                                |
| 10/27 内部研修(給与体系プロジェクト会議)   | 11/27 理事会/執行委員会/障大連運営委員会/地域共生ケア生野<br>推進委員会 |
| 10/28 執行委員会  | 11/30 内部研修(給与体系プロジェクト会議)                   |
| 10/31 内部研修(発達障害勉強会)/IKUNO サラダボウル・プロジェクト                            | 12/1 生野子育て社会化研究会                           |
| 11/1 English Park Sunny Smile(松野農園)                                | 12/4 グループホームスタッフ全体会議                       |
| 11/4 通信編集会議/実習生オリエンテーション(四天王寺大学)                                   | 12/5 内部研修(自己表現)                            |
| 11/6 グループホームスタッフ全体会議/実習生オリエンテーション(関西大学)                            | 12/8 東朋高等専修学校より見学                          |
| 11/8 内部研修(職員全体会議)  | 12/9 成年後見推進委員会                             |
| 11/9 執行委員会   | 12/10 関西大学にて講演(どんどん)/内部研修(給与体系プロジェクト会議)    |
| 11/11 生野区学童期のこども支援連絡会役員会   | 12/11 大阪市オールラウンド交渉①                        |
| 11/9~27 内部研修(人権研修 どんどん活動・ピープルファースト 25 年のあゆみ)                       | 12/13 大阪障害者自立セミナー2020                      |
| 11/12 内部研修(給与体系プロジェクト会議)   | 12/15 大阪市オールラウンド交渉②                        |
|  | 12/16 生野区学童期のこども支援連絡会役員会                   |
|  | 12/17 生野区相談支援事業所連絡会                        |
|  | 12/18 地域共生ケア生野推進委員会役員会                     |
|  | 12/19 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)              |
|  | 12/21 生野区学童期のこども支援連絡会                      |
|  | 12/27 English Park Sunny Smile(松野農園)       |
|  | 12/28 作業所もつつき/執行委員会                        |
|  | 12/29 内部研修(給与体系プロジェクト会議)                   |

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！

- ◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加してくださる個人の方  
会費 3,000 円+通信送料 300 円 計 3,300 円
- ◆寄付者・・・活動を支援してくださる個人・団体の方  
寄付金 年間 3,000 円以上

★認定 NPO 法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内府内にお住まいの方)】を受けられるようになりました。  
認定 NPO 法人として続けていくためには、年間 3,000 円以上寄付して下さる方が、100 人以上必要です。  
ご支援、ご協力よろしくお願いたします。

- ◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料 500 円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080  
特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※通信の郵送がご不要の方はご一報ください。

へんしゅうこうき  
編集後記

昨年さくねんは新型コロナしんがたの流行りゅうこうという、想像そうぞうもしないことが起こった 1 年ねんでした。人生じんせい何が起おこるか分からないみということかんを身に染しみみて感じました。いつでも後悔こうかいしない生き方いきかたをできるようにすることをテーマてまに、これからの人生じんせいを生きていければと思います。  
おも

(シゲヒロ・M)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011  
大阪市生野区田島 1-10-30 たびだち共働作業所内  
TEL 06-6758-6641  
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080  
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)  
Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp  
ホームページ <http://www.tabidati.jp/>

750 部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル 4 階

頒価百円